

意思決定に付随する様々なバイアス

内田智士（倫理文化研究センター専門研究員）

はじめに

日常生活は、意思決定の連続で成り立っている。私たちが行う瞬間瞬間の意思決定は、自分自身の未来だけでなく、他人にも影響を及ぼす。では、私たち人間は、どのような原理・原則・判断基準に基づいて意思決定を行っているのだろうか？

自分の意思決定をするのに、深く考えているわけではないので、特に何らかの原理・原則に従ってはいないと考える人も多いかもしれない。確かに、日常生活の全てに関して、意識的に考えて、熟慮をして意思決定をしているわけではないだろう。

しかし、私たちの脳や身体は、私たちの気づかないところで、常に活動している。そして自分では気づかないそれらの活動は、当然、自分自身に何らかの作用を及ぼしている。その意味で、特に深く考えずに、無意識的に行っている意思決定であっても、それらは私たちの身体活動の結果と言えるだろう。意識的か無意識的かにかかわらず、日々の意思決定は最終的には自分（の脳と身体）で行っているのである。

であれば、自分では気づいていないかもしれないが、そこには何らかの原理・原則があってもおかしくはないはずである。実際に意思決定科学と呼ばれる分野では、人の意思決定に関して普遍的に共通して見られる「人間としての癖」がいろいろと発見されている。

本稿では、意思決定科学により明らかとなっている「癖」（バイアスと呼ばれる）について、特に日常生活と強く結びついているものを紹介したい。前半は自分自身の意思決定について、後半は他者の意思決定に関する善悪判断について記述する。